

Sasebo Kyosai Hospital Communication Paper

# きょううさいだより

## 理 念

博愛の精神・人の和・自己研鑽

## 目 標

- 1.私達は、地域のみなさんのニーズに応え、信頼してもらえる医療を目指します。
- 2.私達は、他の医療機関と共に、地域のみなさんの診療と健康増進に努めます。
- 3.私達は、新しい医学、医療の知識と情報を取り入れ、常に自己啓発に努めます。
- 4.私達は、それぞれが自己の責任を自覚し、安全な診療を目指します。
- 5.私達は、病める人の苦しみや喜びを分かち合える心をもって診療に努めます。

- 第54回共済医学会の開催について ..... p.1
- 第5回市民公開講座のご案内 ..... p.2
- 診療活動の現況～麻酔科(ペインクリニック)～ ..... p.3
- OBに聞く～山口胃腸科外科医院～／救急救命士／編集後記 ..... p.5
- 外来診療担当表 ..... p.6

谷川實男様 撮影

SASEBO KYOSAI HOSPITAL 〒857-8575 長崎県佐世保市島地町10番17号（代表）TEL 0956-22-5136

患者紹介受付専用FAX 0120-12-2067

ホームページ <http://www.kkr.sasebo.nagasaki.jp>

急患室直通FAX電話 0956-22-6052 （代表）FAX 0956-25-0662



## ごあいさつ

院長 福井仁士



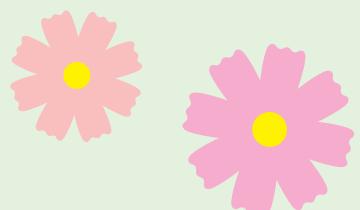
### 第54回共済医学会の開催について

第54回共済医学会を、佐世保共済病院主催で本年10月26・27日にハウステンボスで開催することになりました。この学会は、国家公務員共済組合連合会に所属する当院を含めて36病院の年に一度の行事です。参加者は病院のすべての職種の職員で、全国からおおよそ800人の参加の申し込みがきています。以前には、昭和47年に当院の渡邊喜海院長を会頭として第21回の会が開催されており、佐世保市では33年ぶりの開催となります。久しぶりに佐世保に回ってきたこの学会に備えて、当院の職員一同張り切って準備を進めています。

現在、医学および医療の知識と技術はめざましく進歩しており、また、医療保険財政の悪化に対して医療制度のいろいろな改変が行われています。このような状況のなかで、安全で望ましい医療を目指して各病院の職員は懸命な努力をしております。その努力の様子や成果、今後目指すべき方向などを学会で発表していただきます。今回の学会のテーマを「連合会病院の発展と運営の安定を目指して」と致しました。

会員による発表は、すべての職種から340題ほどになります。シンポジウムは3つ取り上げ、「外来化学療法を安全に行うために」、「医療安全管理のあり方－連合会病院での共通化をめざして」と、「連合会病院における臨床研修の現状と将来」について討議することにしました。特別講演には、長崎総合科学大学のブライアン・バークガフニ教授による「国際貿易港長崎の秘話」(日本語講演)と九州大学吉田素文教授による「新しい医学教育の流れと展望」の2つを予定しております。また、私が「佐世保共済病院の歩み」という会頭講演をすることになっております。

この学会は、連合会病院間の協調のもとで問題点は改善し、よりよい企画を考え、将来の病院の発展を図ろうという目的を持っています。主催者として実りある学会になることを期待しております。また、全国から来る参加者の中には、佐世保は初めてという方が少なくないと思います。参加者には、当地の山海の自然の恵みも楽しんでいただきたいと思っております。残念ながら、この学会には会員以外の方の参加はできませんが、この学会のことを知っていただきたいと思い、今回の挨拶と致します。



# 第5回佐世保共済病院市民公開講座 開催さる 内科部長 林田 一洋

生活習慣病は食生活の欧米化と車社会の発達により増加が著しい疾患です。今回はこの分野で日本のリーダー的な立場にある4人の先生に来演頂き、「生活習慣病から護るために」というテーマで講演をして頂きました。関心の高さを反映して、会場となった8月6日の共済病院8階大講堂は多くの市民の参加で賑わいました。講演内容の概要についてご紹介します。



講演者と座長



会場風景

## ①桶田俊光 新小倉病院院長

### ＜演題＞糖尿病の予防と治療

糖尿病は患者数の増加が著しく、その合併症が原因で失明と透析を受けることになった患者が非常に多く、男性は7年、女性は10年近く寿命が短くなる病気です。糖尿病発症の10年前から異常が進行しているので、早い時期からの食事療法と運動療法が重要です。近年、インスリンは非常に使いやすくなっています。弱った臓器を助けるためにはインスリン治療を積極的に行うべきです。

## ②坂田利家 大分大学名誉教授

### ＜演題＞肥満症 —その疾患概念と治療における新たな展開—

肥満は内臓脂肪が増加するタイプと皮下脂肪が増加するタイプがあり、内臓脂肪が生活習慣病と関係します。肥満の原因となる過食は空腹を我慢することでは解消できず、いかに満腹感を得るかが大切です。そのためには良く咀嚼することが重要で、これにより満腹感が得られるだけでなく、さらに基礎代謝が亢進して太りにくくなります。

## ③井林雪郎 九州大学第2内科助教授

### ＜演題＞生活習慣病と脳卒中

脳卒中には出血と梗塞があります。血圧管理と塩分制限で脳出血は減少していますが、動脈硬化が原因である脳梗塞が増加しています。脳卒中は発症すると麻痺等により生活の質が低下しますので、生活習慣を改善して動脈硬化の進展を防ぐとともに血圧管理が重要です。

## ④砂川賢二 九州大学循環器内科学教授

### ＜演題＞心臓病にかかるために・かかった時のために

動脈硬化が原因での心臓病には心臓を栄養する血管が狭くなっていることで血液が減少して生じる狭心症と、血管が詰まってしまう心筋梗塞があります。幾つかの危険因子（高脂血症・糖尿病・喫煙・高血圧・ストレス・年齢）が重なることで発症率が増加するのでこれらの増悪因子を軽減することが重要です。



## はじめに

麻酔科の深野です。平成5年9月に赴任いたしまして、平成9年に当時の麻酔科責任者であった外科の武内先生の後を受け麻酔業務を行っております。メスの使えない麻酔科としては初代になります。最初は細々と一人でやっておりましたが、手術件数の増加に伴い徐々に人数も増え、現在3.6人体制で診療を行っております。

術後管理が大好きな11年目の吉村真紀先生、寡黙に働く5年目の松本周平先生、大分より嫁入で来られて週3日フルタイムで応援に来ていただいている8年目の別府幸岐先生と、スタッフも充実してきて麻酔専門医の数も多くなってまいりましたが、手術症例数に対する麻酔科医の数はまだ足りない状況です。もし手伝ってもいいとおっしゃる先生がおられましたら御連絡をお待ちしております。

## 【麻酔業務】

共済病院の手術室数は7室、看護スタッフ19名、看護助手3名です。そこで年間3000症例を超える手術が行われています。空いてる室は各科に狙われ当然の如く手術が入ってきます。さながら戦場のような手術室です。全身麻酔症例は約1100症例、外科以外の症例は全例麻酔科にて施行していますが、外科症例の1/3は外科医による麻酔でお願いしている状況であり申し訳なく思っています。腰椎麻酔も1300症例中200例程度をお受けするのが限度のようです。ご迷惑をお掛けしております。

近年の麻酔の動向は、血圧や脈拍を安定させる事に留まらず、手術侵襲を積極的に制御する方向へと変わってまいりました。当院でも出来るだけすべての全身麻酔症例に区域麻酔(硬膜外麻酔、脊椎麻酔、神経ブロック、局所麻酔など)を併用して、手術侵襲を軽減し、術後痛及び術後合併症の軽減に働くよう努力しております。また、心肺機能の低下した患者さんや汎発性腹膜炎などの重篤な患者さんに対し、麻酔導入後よりプロテアーゼインヒビターや好中球エラスターインヒビターの投与を行い、早期に侵襲の軽減をはかっております。

幸いにしてここ10年間術中死はありません。2~3年に一度程、冠動脈のスパスムと思われる心室細動があり、除細動器の御世話になっておりますが、なんとか無事に家族のもとへ帰っていただいています。これも各科の先生方、手術室スタッフのおかげと思っております。

近年の病院を取り巻く医療情勢は当手術室にも影響を及ぼし、手術症例の増加、患者さんの高齢化、長時間手術など、効率の中にも安全を求める体制が望まれています。現在、手術室数を8室とするべく改裝中であり、看護スタッフも増員予定であります。手術室の更なる安全のため麻酔科も頑張っていきたいと思います。



ブロック施行中の松本医師

## 【麻酔科外来(ペインクリニック)】

毎日午前中は麻酔科外来にて二人の麻酔科医が、術前診察、当日の手術の硬膜外留置、ペインクリニック、癌性疼痛コントロールを行っております。看護スタッフは二人で、麻酔科の北の政所、鬼より怖い碇さんと麻酔科のご意見番、亀の甲より年の功の多久島さんです。狭いながらも楽しい我が家を目指しております。

以下に主なペインクリニック対象症例の紹介をいたします。

### ＜腰・下肢痛＞

整形外科の脊椎手術適応にならない患者さんを中心に硬膜外ブロック、硬膜外洗浄、神経根ブロック、脊髄神経後枝内側枝高周波熱凝固等を行っています。脊椎手術後の腰下肢痛に梨状筋手術が有効であったとの報告を参考にして、坐骨神経ブロックを最近多用していますが、良い感触を得ています。また、血管外科から紹介をうけた慢性閉塞性動脈症の患者さんに対し、腰部交感神経節ブロックを行っております。

### ＜顔面神経麻痺＞

発症早期より顔面神経管に圧迫された神経を保護するべく、顔面の血流を改善する星状神経節ブロックを行っています。第1選択はステロイド剤投与ですが、星状神経節ブロックを併用したほうが早期の改善につながると考えています。

### ＜三叉神経痛＞

特発性三叉神経痛は当院脳神経外科が減荷手術を施行されますのでアルコールブロックは数例しか行っておりません。

### ＜帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛＞

疼痛の性状としてこれほどいやらしいものはありません。発症から2週までの帯状疱疹痛、2週から1ヶ月までの帯状疱疹後痛、3ヶ月以降の帯状疱疹後神経痛に分類されます。初期の皮疹部の知覚低下があると、求心路遮断痛である帯状疱疹後神経痛に移行しやすいと考えられます。麻酔科的治療としては、発症早期に硬膜外腔、及び責任神経根部にステロイドの投与を行い炎症を抑えます。疼痛が激しい場合、持続硬膜外ブロックを行い疼痛が治まるのを待ちます。また、全身麻酔薬であるケタミンを使って疼痛の閾値を上げる試みを行っています。しかし、不幸にして帯状疱疹後神経痛に移行することもしばしばで、抗うつ剤や抗不整脈剤の御世話になってしまい、患者さんや紹介していただいた皮膚科の先生方に申し訳なく思っています。

### ＜癌性疼痛＞

当院の緩和ケアチームの一員として、主に身体症状の緩和を行っております。モルヒネの効きづらい神経因性疼痛や体動痛に対し、神経破壊剤や高周波熱凝固を用いた神経ブロック、鎮痛補助薬によるコントロールを行っております。

### ■麻酔法別症例数の推移

	13年度	14年度	15年度	16年度
全身麻酔	1,112	1,118	1,164	1,116
脊椎麻酔	1,155	1,276	1,380	1,328
局所麻酔	626	853	750	729
透視下ブロック	16	30	93	75
全症例数	3,094	3,519	3,562	3,375



麻酔科外来スタッフ

## 診療案内

月～金曜／午前 ペイン外来

月～金曜／午後 手術麻酔

医療相談室では、医療ソーシャルワーカー(Medical Social Worker/MSW)という専門の相談員が、患者さんのいろいろな「困った!!」に対して相談をお受けしています。お一人おひとりのプライバシーには十分に配慮しながら、当院での治療を安心して受けていただき、その後の療養生活や日常生活をスムーズに送っていただけるようお手伝いしています。

現在、医療相談室には次のような相談を多くお寄せいただき、対応しています。

### ●経済的問題

「入院費が支払えない」などお金に関する問題について、高額療養費制度や貸付・委任払などの制度を紹介

### ●退院先の相談

「病気の後遺症などのため自宅に帰れない(施設入所希望)」「退院後もリハビリを続けたい」など当院での治療終了後の生活や療養について、施設や病院を紹介

### ●福祉制度の利用

身体障害者手帳や介護保険など、福祉制度の説明や申請手続きの支援

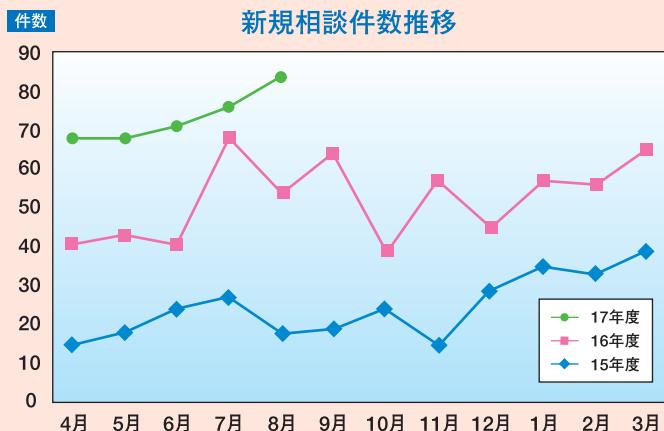
### ●連絡・調整

院外で患者さんの支援をしているケアマネージャーや公的機関の担当者と、病院スタッフ(医師も含む)との連絡・調整

この他にも様々な相談をいただきますが、実はMSWだけで解決できる問題はそんなに多くはありません。患者さんやご家族のお力と、病院スタッフや専門機関関係者の方々のご協力を得て、一つ一つ問題の解決に向かって取り組んでいます。

医療・福祉制度がめまぐるしく移り変わる昨今、患者さんの戸惑いの大きさを反映するかのように、医療相談室に寄せられる相談は毎年増え続けています。

病気と闘う患者さんとご家族が、安心して治療に専念できるよう少しでもお手伝いできればと思いますので、何かお困りのことがありましたらお気軽にお立ち寄り下さい。



○医療相談室は、1階正面玄関横・急患室の向かい側にあります。患者さんとの面談などのためMSWが不在の場合などは、1階受付へお尋ね下さい。

■連絡先:0956-22-5136(代)・内線1158

■担当:平田和歌子・永田敬博

## 山口胃腸科・外科医院 山口 國行 先生



### Q.当院との御関係は?

**A.**父(山口國衛先生)が昭和8年から16年まで外科に勤めていました。私は昭和37年千葉大学を卒業後共済病院でインターンをして、その後九大第2外科に入局。福岡国立病院を経て昭和50年に外科に帰ってきました。53年から父の後を継いで春日町で開業しています。



山口先生とスタッフの皆さん(後列右は倫先生)

### Q.御在職当時の様子は?

**A.**当時は外科スタッフは3人しかおらず、患者さんも少ない状況でしたので手術の多い外科への変貌をめざして色々と努力しました。組合の委員長を引き受けるなど充実した3年間でした。その後を松永章先生以下が引き継いで大いに盛り立てて頂きました。

### Q.山口医院の現況は?

**A.**胃腸科が専門ですので上部消化管の内視鏡、エコー検査などを主に行っています。10年前に手術を止め入院もなくしましたので楽になりました。4年前からは佐世保市医師会長をしていますので忙しく、久留米大学病理学教室にいる長男(倫先生)が月2回ほど手伝いに来てくれています。

### Q.共済病院への御注文など?

**A.**患者さん方の評判は良くて問題を感じることはありません。特に小児科が開業の先生方と連携して急诊医療体制をうまく運営して下さっている事には医師会としても大変有難く思っています。

医師会長職と診療の両面で精力的に御活躍中の先生からはこの他にも共済病院への暖かいアドバイスを頂きました。又頂戴した御父君在職当時の貴重な写真は大切に保存したいと存じます。

インタビュア／編集委員長 萩原博嗣

## 救急救命士～気管挿管病院実習30症例修了、県北地域第1号誕生へ～

「気管挿管」とは最も確実に気道を確保する方法で、全身麻酔や呼吸不全のときに行われる手技です。出来るだけ多くの救急患者の命を救うために、平成16年7月より救急救命士に「気管挿管」の実施が認められました。その前提条件として追加講習(62時間以上)と麻酔科専門医の指導による実習が義務づけられています。

このたび佐世保共済病院で、佐世保市消防局西消防署の鴨川富美夫救急救命士が気管挿管実習30症例を一度の失敗も無く、1か月以内という異例の速さで修了されました。鴨川さんの技術もさることながら患者さんに対する真摯な姿勢の賜物と考えております。今回の実習に快く協力していただいた患者様方、スタッフの皆様方に深く御礼申し上げます。

がんばれ!鴨川さん。

(麻酔科医長 深野拓)



人形モデルを使っての挿管実習



福井院長から修了証を受ける鴨川さん

### 編集後記

格別に暑くて渴水にヒヤヒヤした夏が過ぎる間もなく、台風、選挙とあわただしい日が続きました。10月には当院主催の「共済医学会」がありますので、落ち着いて読書でもできるようになるのはまだ先の事のようです。

編集委員長 萩原博嗣

科	役職	医師名	月		火		水		木		金		備考(専門分野・特徴など)
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
内科	部長	林田一洋			●		●				●		肝臓・消化器疾患
	医長	佐藤浩信			●		●				●		消化器疾患・膠原病
	"	松見里美	●				●				●		消化器疾患
	"	野口誠司			●				●		●		肝臓・胆嚢・脾臓疾患・消化器疾患
	"	金子武生	●				●				●		循環器疾患
	"	藤澤伸光	●	●			●				●		呼吸器疾患
	"	大塚容子	●						●		●		腎臓疾患
	医員	村上謹士郎			●			●		●	●		循環器疾患
	"	久間文明			●		●		●				循環器疾患
	"	原口総一郎			●			●					腎臓疾患
	"	松永圭司	●						●				消化器疾患
	"	古山和人			●				●				呼吸器疾患
	"	有馬誠一郎	●						●				消化器疾患
	糖尿病教室					●		●		●	●		※詳細は内科外来へお尋ね下さい。
小児科	部長	岡尚記	●	●							●		小児一般
	医長	合田裕治	●				●		●				小児アレルギー疾患
	医員	白川利彦	▲				●				●		気管支喘息
	"	蓮把朋之		●				●			▲		※▲は未熟児回診後の診療のため、開始時間が遅れます。
	乳児健診					●							火曜PM1:00~
	慢性外来・神経外来						●						水曜PM2:00~※神経外来は第2水曜日のみ(要予約)
	喘息外来								●				木曜PM2:00~
外科	外科顧問	松永章							●				内視鏡下外科
	部長	江里口直文	(●)				●				●		※月曜は新患のみ受付
	医長	大堂雅晴			●				●				※月曜～金曜の午後は手術
	医員	澤田健太郎	●				●						一般外科・消化器外科
	"	川畑方博		●							●		血管外科
	"	原田洋		●							●		一般外科・腹部エコー
	"	赤須玄	●										一般外科・乳腺外科
脳神経外科	院長	福井仁士	●				●						一般外科
	診療部長	山川勇造							●		●		脳腫瘍・脳血管障害・頭部外傷・脊椎外科
	医長	濱田康宏	●					●					小児の神経外科・顔面痙攣・三叉神経痛の外科手術・顔面痙攣のボツリヌス注射療法
神経内科	医員	高倉由佳									●		神経内科疾患一般※第2・第4金曜日のみ
整形外科	部長	萩原博嗣	●				●				●		骨関節疾患全般
	医長	久我尚之			●		●		●				・股・膝関節の関節形成術・人工関節置換術
	医員	寺本全男	●					●			●		・膝・肩・手・肘の鏡視下手術
	"	井上三四郎		●				●			●		・脊椎外科・腰部疾患手術
	"	中村哲郎	●	●							●		・肩・手の外科
	"	岡田文	●	●			●						・リウマチ・スポーツ整形外科・足の外科など
	"	黒瀬圭					●		●				
皮膚科	医長	平島徳幸	●	●	●		●		●	●	●		・湿疹・虫刺症・アレルギー性皮膚炎
	医員	尾形美穂	●	●	●		●		●	●	●		・皮膚感染症・爪疾患・毛疾患
泌尿器科	部長	山田潤	●				●				●		・皮膚小手術(紛瘤・陥入爪など)(火・水・金)
	医長	森光浩	●						●		●		尿路結石・尿路腫瘍・前立腺疾患
	医員	高橋元			●		●						体外衝撃波結石破碎術(ESWL)
	"	森健一			●				●				尿失禁・尿路感染
産婦人科	副院長	木寺義郎	●				●				●		産科・周産期医療・不妊症・内分泌疾患
	医長	鶴地伸宏	●		■		●		●				体外受精・胚移植術・腹腔鏡下手術
	"	内山章	■		●		●						更年期・婦人科疾患
	医員	新谷可伸			●		●	■	●				※●:婦人科診療日 ■:産科診療日
	"	山口明子	●		●				●		■		
眼科	医長	小西健一	●		●		●	●	●		●		白内障手術・緑内障手術・硝子体手術・網膜剥離手術・眼瞼下垂手術・翼状片手術・レーザー光凝固術など※水曜の午後は術前検査と特殊再来(要連絡)
	医員	中森玄司	●		●		●	●	●		●		
耳鼻咽喉科	医長	佐藤公治	●		●		●		●	●	●		アレルギー性鼻炎のレーザー治療
	医員	井口貴史	●	●	●		●		●	●	●		小児の耳鼻咽喉科疾患
放射線科	医長	野々下政昭	●								●		耳・鼻・喉嚨頭・頸部などの手術
	医員	岩本良二											MRI、CT、RI、血管造影、超音波検査
	"	吉田成吾			●								消化管造影・内視鏡検査
	"	久能由記子					●						内視鏡下手術(ポリープ切除)
麻酔科	医長	深野拓	●				●		●				※月～金午前ペイン外来
	医員	吉村真紀			●						●		※月～金午後は手術麻酔
	"	松本周平			●				●				
	"	別府幸岐	●								●		
歯科 口腔外科	医長	川村英司	●	●	●	●	●	●	●	●	●		歯科・口腔外科(紹介患者のみ新患受付)